

令和6年度 瓜破西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

◆全国学力・学習状況調査

《国語》

全国平均・大阪府平均と比較し、ほとんどの領域において平均正答率を下回った。基本的な学力についてはまだまだ課題があるといわざるを得ない。小問ごとの正答率をみると、全国平均・大阪府平均とほとんど差がないか、上回っているものもあるが、有意なものではないと思われる。しかし、全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかった「読むこと」の領域では、日ごろから長文の読解に取り組んでいる成果があったものと考ええる。

《数学》

全国平均・大阪府平均と比較し、すべての領域において平均正答率を下回った。「数と式」、「図形」、「関数」の領域では、全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかったが、「データの活用」の領域では、全国平均・大阪府平均との差が大きかった。日ごろから授業に演習時間を取り入れ、習熟度別授業を実施することで、確かな計算力や小問を解く力についてはついてきているが、「箱ひげ図」を用いてデータを分析する力が乏しいことが課題である。

◆大阪府中学生チャレンジテスト（3年生）

《国語》

大阪府平均と比較し、すべての領域において平均正答率を下回った。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域では、大阪府平均とほとんど差がなかった。日頃から自分の言葉で自分の考えを伝える力を身につけるため、グループでの共同学習をおこなっている成果があったものと考ええる。

《社会》

大阪府の平均正答率と比較し、すべての領域において平均正答率は下回る結果となった。無解答率が0%のものが多いことから、一生懸命に問題に取り組んで解答している姿勢は読み取れるが、学習した知識の定着ができていないことがわかる。ただ、地理的分野の地形図の問題では、大阪府平均より正答率が高く、一定の成果があったものと思われる。

《数学》

入試対策として毎授業における小問演習を取り入れることで基礎的な学力が向上した点が成果である。ただ、「数と式」、「図形」の単元で成果が見られる一方、そういった対策が不十分であった単元「関数」「データの活用」では大阪府の平均正答率を下回る結果となった。対策をきちんとおこなうかどうかの結果を左右するということがわかったことは、それ自体が成果であったと考えられる。

《理科》

大阪府平均と比較し、すべての領域で平均正答率を下回った。特に「生命」の領域では大阪府の85%と特に低かった。母集団を3分割して考えると、70点以上の層が少なく、30～70点の層、30点未満の層が多かった。問題形式別にみると、選択式・短答式においては大阪府平均の90%程度であるのに対して、記述式は平均を超えている。このことより、科学的事象を捉え、自分の言葉で表すことは一定できていると判断できるが、基礎知識が乏しいことがうかがえる。

《英語》

大阪府平均と比べ、すべての領域において平均正答率を少し下回った。しかし、そのうちの「聞くこと」の領域においては大阪府平均とほぼ差のない状況であり、本校では比較的正答が多かったといえる。これは、授業時に、正確に発音を聞き、また正確に発音することを心がけるよう継続して指導してきたことや、授業に英語の歌を取り入れたりした成果が出ていると思われる。

【今後に向けて】

◆全国学力・学習状況調査

《国語》

全体的にみると、知識及び技能の観点の向上が望まれる結果となった。そのため基礎的な学力の定着を目指して、日常的に漢字の書き取りを取り入れ、教科書の音読などにもしっかりと取り組んでいきたい。成果があったと思われる長文読解の取り組みは、今後も継続して取り組んでいき、さらなる成長につなげたい。

《数学》

現在、入試対策として授業開始時に計算問題を中心とした問題を解く時間を設けている。「数と式」、「図形」、「関数」の領域では、全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかったことから、今後も同様に実施していきたい。また、以前までは入試対策の問題として「データの活用」領域の問題が少なかったため、今後は積極的に取り入れ、データを分析する力を養っていきたい。

◆大阪府中学生チャレンジテスト（3年生）

《国語》

大阪府平均と最も差が開いていたのは「読むこと」の領域であった。今後は授業内に問題演習をする時間を取り入れるなどして、多くの問題に触れる機会をつくっていききたい。また、「書くこと」の領域に関しても、言語活動に作文等の活動を入れるなどして、文章を書く力を伸ばしていきたい。

《社会》

今回の結果を見ると、資料に示されている情報を正確に読み取って考察し、それを説明する力が不足していると思われる。今後は、授業の中でも資料を活用し、そこに示されている情報を読み取って、さらにそれを説明するといった課題を設定して、力をつけていきたい。

《数学》

意図的に対策をおこなった単元において正答率が高かったということを受けて、今後はさらに対策をおこない、どのような問題が出題されても、多面的・多角的に考えながら取り組む力を身につけさせるような活動を取り入れていく必要がある。また、3年生は入試を控える時期になってくるため、さらなる学力の向上を図るような授業展開をしていく必要がある。

《理科》

すべての分野において、問題の練習が必要である。特に、その問題が何を尋ねているのかを的確に理解させる必要がある。一方、知識量を増やすための授業内容を充実させることも必要であり、それについては語句の理解に重きを置きたい。反応式や計算問題などの思考を問う設問に対しては、繰り返し反復練習をおこない、問題のパターン化をおこなう必要がある。

《英語》

特に「読むこと」、「書くこと」の領域で大阪府平均との差が大きいため、今後の授業では長文読解や英作文練習など「読むこと」と「書くこと」に重点を置いて取り組んでいきたい。また、比較的正答が多かったリスニングについても、引き続き「聞くこと」の演習に取り組んでさらなる学力向上を目指していきたい。